

科目名		災害産業保健学演習	
科目責任者		立石 清一郎 (災害産業保健センター 教授)	
開講時期:	2年次	単位数:	4 単位
		時間数:	90分× 30 回
<p>● 科目の教育目標</p> <p>一般目標 (GIO)</p> <p>各種災害事例をベースに、災害時のハザード評価、改善提案、組織における調整、支援機関との調整、受援のための準備などについてケースをもとにディスカッションを行い、知識を実践レベルまで高めるとともに、災害対応を行うときの態度についても理解する。</p> <p>行動目標 (SBOs)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 事例をもとにリスク評価を行うことができる 2) リスク評価をもとに対策の優先順位を考えることができる 3) 対策を立てる際の促進要因・阻害要因についてリストアップすることができる 4) 立てられた対策が個別のハザードに対する対策から総合対策に結びつける方策を理解する 5) 立場によってリスクの所在が異なることを言語化することができる 6) ステークホルダーを集めてリスクコミュニケーションを行うための資料を作成することができる 			
● 評価方法	演習参加状況50%、発表50%等で総合評価する。		
● 参考文献	災害産業保健入門(労働調査会)、災害復興法学(慶應技術大学出版)、災害精神医学ハンドブック(誠信書房)、産業保健マニュアル(南山堂)		

● 授業内容

回	内容	担当教員
奇数回	主に、リスク評価を行うためのケースをもとにケースメソッド教授法を用いて、受講者の自ら考える力、解決能力を高める。また、ケースの中から、臨床的クエスチョンを見出し、リサーチクエスチョンに起こし込む作業を行う。	立石
偶数回	主に、コミュニケーションが必要となるケースをもとにケースメソッド教授法を用いて、受講者の自ら考える力、解決能力を高める。コミュニケーションを行うために、事前の準備、受援の重要性について言語化できるレベルにまで到達し、実践レベルを高める。また、ケースの中から、臨床的クエスチョンを見出し、リサーチクエスチョンに起こし込む作業を行う。	立石